

平成29年度 第2回高島市総合教育会議 会議録

日 時 平成29年11月21日（火）

開会 午前 9時25分

閉会 午前11時10分

場 所 新旭公民館 多目的ホール

出席者 市長 福井 正明

教育長職務代理者

小多 借裕

教育委員 三矢 艶子

川原林 正英

田邊 栄美子

教育長 上原 重治

事務局

（市長部局）

政策部長 澤 新治 総務部長 上山 幸応

子ども未来部長 饗庭 正昭 市民生活部長 田谷 伸雄

子ども未来部次長 木下 晃 子ども家庭相談課長 平井 浩美

市民協働課長 饗庭 眞二 市民協働課参事 加藤 圭子

市民協働課地域おこし協力隊員 原 周右

（教育委員会事務局）

教育総務部長 清水 真理子 教育指導部長 伊吹 美喜夫

教育総務部次長 北村 英明 教育総務課長 大塚 寿彦

学校給食課長 橋本 裕導 文化財課長 齋藤 清吉

市民会館長 中川 肇 市民スポーツ課長 赤水 新次

図書館長 玉木 健史 社会教育課参事 小川 祥枝

学校教育課長 内藤 孝 青少年課長 松田 邦幸

学校教育課主監 和田 英幸

教育総務課参事 北村 洋子 教育総務課主査 杉原 怜

傍聴人 2名

<p>大塚教育総務課長</p>	<p>皆さまおはようございます。</p> <p>定刻より少し早いのですが、皆さまお揃いでございますので、ただいまから平成29年度第2回高島市総合教育会議を開会させていただきます。</p> <p>開会にあたりまして、福井市長がご挨拶を申し上げます。</p>
<p>福井市長</p>	<p>おはようございます。</p> <p>先日から、この冬一番と言われる寒気が流れてまいりまして、非常に寒い中来ていただきましたけれども、委員の皆さまには大変お忙しいところお越しいただきましてありがとうございます。</p> <p>この寒い季節を迎えるわけですけれども、思い出しますと、今年の1月は大変な豪雪に見舞われまして、市長選挙と市議会議員選挙の真最中でありましたけれども、選挙運動をちょっと中止させていただいて、災害の対策にあたらせていただきました。あの時はちょうど月曜日から降り出しまして、災害の対策本部を開催させていただきました。確か小中学校を2日続けて休校にさせていただきました。月曜日の夜、お風呂を上がったもまだ降っている。火曜日になりますと様子を見ていてもまだまだ降り止みませんので、もう1日休校としたとそういうことも1月にはあったなと思い出しました。そんな中で、先月も台風21号の襲来により、これまでかつて経験したことのないような暴風被害を受けました。あの時も確か月曜日を休校にするという対応をさせていただきました。</p> <p>いろんな意味で、災害だけでなしに、子どもたちが安全で安心して、そして教育がちゃんと子どもたちに伝えられる、あるいは子どもたちにとっていい教育環境とは何かを常に考えながらやらせていただいているところであります。</p> <p>今日は、8月の会議の時に地域の学校協働本部についてもう少し実績と言いますか、検証と言いますか、効果といったものを聞かせていただきたいということで、今日は</p>

そちらを1つ目のテーマとさせていただきます。

そして、最近特に、新聞で取り上げられていますけれども、教職員の皆さんのいわゆる時間外労働が、大変多く、ストレス、あるいは負担になっているということが報じられております。県のほうでも、働き方改革の推進本部が立ち上げられ、確か、新聞で県の教育長が出来るだけ早い段階で方針なり、方向性を示したいと伝えられたところなんです。今日は後半で、まずは現在の市内の教職員の皆さんのそういう労働環境と言いますか、実態と言いますかをお話しさせていただきたいと思っております。

今日は、この2つのテーマで用意をしてきていただいておりますので、短い時間の中ではありますけれども、忌憚のないご意見をいただきますようお願いして、私からの開会の挨拶とさせていただきます。お世話になります、どうぞよろしくお願いいたします。

大塚教育総務課長

続きまして、教育委員会を代表して、上原教育長からごあいさつ申し上げます。

上原教育長

おはようございます。

本日は、第2回目の総合教育会議ということで、市長をはじめ、市長部局の皆さんにはご出席いただきまして、ありがとうございます。

さて、私が昨年度、安曇川中学校の校長をしている時に、ある一本の電話がありました。校長室へはいろんな電話があつて、苦情の電話などいろいろあるのですが、その電話はこのような電話でした。中学生が、帰るときに私に自転車から「こんにちは」「こんにちは」と声をかけるんです。ここで仰ったのは、「私のような年寄りに声をかけてくれる人は、誰もいない中で、中学生が声をかけてくれたことが非常にうれしくて涙が出てきました。あまりにもうれしいので、中学校へ電話をさせていただきました」という電話でした。帰る子どもたちの時間で、間違いなく中学3年生だとわかりました。中学生が地域のお年寄りに声を

かけて、地域の人々の心を温かくしたんだなあということ、充分地域の教育に役立っているなと感じた電話でありましたし、非常に印象的な電話でした。

それと、この11月12日に青少年育成大会があり、市民会議のスローガンは、地域の子どもは地域で守り、育てるとというのがスローガンとして掲げられています。その中の講演会がありまして、林智子さんという方が「ダメな子なんて一人もいない」というテーマでお話をされまして、先天性の心疾患をもって生まれた愛娘のあーちゃんという子が6歳で亡くなられて、その子の子育て経験から命は大切だということについてお話をされたわけですが、この中で印象に残った言葉が、地域みんなであなたが大切ですよとメッセージを送ることが大切ですよとお話をされました。

この二つの話は、それぞれ反対側の側面から発していただいたことではありますが、本日の1つ目のテーマに非常に関わるキーワードだなというふうに考えているところであります。

それから、もう1つのテーマは、先ほど市長の方からもお話のありました教職員の長時間労働についての課題が、現在クローズアップされております。ある速報、いわゆる教員の勤務実態調査の速報値が報告される中で、教員の1週間あたりの学校の中での勤務時間、いわゆる持ち帰りを含まないという時間ですが、小学校が平均すると57時間25分ということの報告が出ております。これは10年前、平成18年度に調査された結果から比べると、4時間9分増えた。10年間で4時間9分増えたと言われております。中学校につきましては、63時間18分で、平成18年度と比べると5時間12分増えたという報告でありました。

しかし、平成32年度から始まる小学校の新学習指導要領では、小学校3年生から6年生で外国語教育が増えますので、週当たり1時間授業時数が増えるということになってきます。次年度から先行実施が始まっていくわけですが

	<p>、このようなことからすると、やはりこれから授業改善を含めて、教育の質の確保、あるいは向上という面からも、やはり教職員の働き方改革を今後とも早急に進めていく必要があるというような話が話題になっています。私もそのように思っています。</p> <p>本日はこの2つの議題について、議論するという事になっておりますので、本日も有意義な時間となりますよう皆様方をお願いをしまして、あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>大塚教育総務課長</p>	<p>本日の会議の出席者につきましては、福井市長、教育委員の皆さま、上原教育長の他、お手元に配付をしております座席表のとおりでございます。皆さんどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ここからは、福井市長の進行により会議のほうを進めていただきます。</p> <p>福井市長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>福井市長</p>	<p>それでは、今日は2つのテーマがございますので、まず1つ目の「学校・家庭・地域をつなぐ」をテーマにした意見交換をさせていただきます。これは先ほども申し上げましたが、8月のこの会議で、他市の事例などを踏まえながら意見交換などをしていただきましたけれども、もう少し市内のボランティア活動、あるいは地域との関わりについて現状をもう少し整理をしていただいて、それにもとづいて議論をした方がわかりやすいのではないかとということで、少し資料を用意していただきましたので、その資料を踏まえて、議論を進めていきたいと思っておりますので、事務局からの説明をお願いします。</p>
<p>北村教育総務部次長</p>	<p>おはようございます。</p> <p>教育委員会教育総務部次長の北村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>先ほど市長からお話ございましたが、8月に開催され</p>

ました第1回総合教育会議において、市内小中学校と地域との関わりについて現状を整理すべきであるとのご意見をいただきましたので、今回、私の方から、現状におけるボランティアの活動実績、成果、今後の課題等につきましてご説明をさせていただきます。

まず、学校支援ボランティアの活動実績でございます。毎年、学校支援ボランティアとしてたくさんの方にご協力をいただいておりますが、その内容は大きく分けまして、学習支援、学校行事への支援、環境整備、登下校時の支援の4項目程度に分類ができます。まず、学習補助でございますが、地域学習の講師、農業体験支援、ミシン指導、そろばん指導、調理実習指導、本の読み聞かせ、部活動指導などがございます。次に、学校行事への支援ですが、マラソン大会や朽木東小学校で行われています朽木一周サイクリング、安曇川中学校のツールドびわ湖、今津中学校のカヤックの旅など、主に安全指導としてご協力をいただいております。続いて環境整備ですが、校舎内外の清掃、除雪作業、植木の剪定、花づくりなどがございます。最後に、登下校時の支援でございますが、スクールガード、あいさつ運動などにご協力をいただいております。

こうした学校行事へのボランティア支援に対しまして、学校の先生方からご意見ご感想をいただいておりますので、紹介をさせていただきます。まず、学習意欲や内容理解の高まりでございます。地域の方から専門的なお話を聞き、また実際に手取り足取りご指導いただくことにより、子どもたちは普段の授業とはまた違った刺激を受け、その授業に新たな興味、関心を持ってもらえたり、内容もよく理解してもらえたりといった効果が期待できます。次に学校行事の円滑、安全な実施でございます。学校行事は常に安全で円滑な実施が求められ、先生方は常に細心の注意を払って運営に携わっていただいておりますが、やはり先生方だけでは人数も限られ、見落としや思い込みなども絶対には言い切れません。多くの方に行事に携わっていただくことで、新たな気付きや工夫なども生まれてくること

と思われます。次に新たな支援・協力体制の構築でございます。現状では、地域の方が学校に来ていただく機会は非常に少ないと思われます。保護者の方でさえ、参観日や行事のある時以外はなかなか敷居が高くて入れないという方が多いと思いますし、それ以外の方はなおさらでございます。しかしながら、支援者として学校に足を向けていただくことにより、教職員や児童生徒の実際の姿を見ていただけ、さらなる協力や貴重なご意見をいただく機会も増えてくることと思います。最後は、子どもの変化への気づきでございます。地域の方と子どもたちが日常的にあいさつやお話のできる関係ができれば、「今日は元気がないけど、どうしたんだろう」とか「最近、服装が乱れているけど、どうなんだ」といったような子どもたちの変化に気づいていただけますし、学校へ連絡していただくことにより、非行防止やいじめの未然防止などにつながるものと思われます。

次に、子どもたちにとってどういう効果が期待できるのかをご説明いたします。まず、コミュニケーション能力の向上です。平成27年度地域学校協働活動実施アンケート調査、これは文科省の調査でございますが、この結果によると、子どもたちが地域の方と交流することによりコミュニケーション能力の向上につながったと約89%の方が回答しておられます。次に、地域への理解、関心の深まりです。同じアンケート調査の結果を見てみますと、子どもたちが地域の方と交流することにより、様々な体験や経験などが増え、地域への理解や関心が深まったと約90%の方が回答しておられます。最後に平成26年3月のお茶の水女子大学の調査研究ですが、地域で学習支援ボランティアを実施している地域においては、そうでない地域に比べて学力調査の正答率が高いという調査結果も得られております。

次に、学校支援ボランティアの現状における課題を申し上げます。まず1点目は、ボランティアの確保が困難であるということです。現状は、学校の先生や事務職員の方が

手配されていますが、現状といたしまして、時間がなく、地域に精通した先生方も少なくなっていることから、どうしても毎年同じ方をお願いすることが多くなり、新しいボランティアの発掘に繋がらないという声が聞かれます。次に2点目といたしまして、担当の先生が個別に連絡調整を行っているため、相当な時間と労力がかかり、先生が、子どもたちと向き合う時間が少なくなるということでございます。また、3点目といたしまして、1点目にも通じる課題ではございますが、地域に精通した先生が少なくなっているため、地域にどんな団体があって、どんな活動をしているのか知らない場合が多く、こういった活動であればこの誰に頼めば良いかといったことが分からないという課題がございます。

これまでは、学校の事業に係るボランティア支援について説明してまいりましたが、これからは小中学生の地域活動についてご説明申し上げます。

まず、活動実績の例を挙げさせていただきます。3点例示をさせていただきますが、イベントへの協力、福祉活動への協力、地域の清掃活動への参加でございます。イベントへの協力には、地域の文化祭や運動会、祭礼、夏まつりなどで、スタッフやステージ発表者として参加していただいています。また、福祉活動への協力は、保育ボランティアや敬老訪問などがございます。地域の清掃活動といたしましては、地域団体と協力して道路や浜辺などの清掃活動を実施している例がございます。

小中学生の地域活動で期待できる効果でございますが、3点挙げさせていただきます。1点目は地域の教育力の向上、地域の活性化でございます。先ほどの文科省調査によりますと、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながったという回答が約70%ございます。2点目は、世代を超えたコミュニティの形成でございます。小中学生が地域参加することにより、世代を超えた住民のつながり、地域コミュニティの形成が期待できます。そして、3点目が、ふるさとを大切に作る心、愛郷心の醸成でございます。

す。地域活動への参加が、ふるさとに対する愛着心を育て、ふるさとに住み続けたいと思う心へつながっていくものと期待できます。

続きまして、小中学生の地域活動における課題を申し上げます。まずは、調整に時間がかかるということでございます。小中学生に参加してもらうためには、地域役員の方々がその段取りをされますが、その方たちは行事に関する準備で精いっぱいというところも多く、子どもたちには参加してもらいたいが、役員の負担の増とノウハウの不足のため、尻込みしてしまうケースが多いのではないかと考えられます。2点目は、相談窓口についてであります。地域活動には参加してほしいけれど、今まで学校とのつながりがないため、果たして学校に相談すればよいのか、PTAに相談すればよいのか、それとも他の団体に相談するのか迷っておられるケースも多いのではないかと考えられます。そして3点目は、地域活動へ参加してもらえるのかということでございます。部活動でありますとか、学習塾、習い事、スポーツ少年団の活動など、子どもたちも忙しく、地域活動に参加できないという場合もあるのではないかと考えます。最後に4点目ですが、参加してくれた子どもたちに参加してよかったという満足感を持ってもらえるのかどうかということが課題で、それがなければ、行事は先細りしていくのは明らかでございます。そのためには、しっかりとした事前準備や事業後のフォローなども必要になります。

ここまでは、学校ボランティアの活動と子どもたちの地域参加について現状と課題を述べさせていただきましたが、ここからは、今年度モデル的に地域学校協働活動に取り組んでいただいております高島学園の状況につきまして、地域コーディネーターの中村眞奈美さんのお話をもとに進めさせていただきます。

今年度、高島学園に支援者としてご協力いただいている方は、4月から9月の半年間の延べ人数で497人、昨年度は1年間で560人でしたので、半年で昨年度

<p>中村地域コーディネーター</p>	<p>1年間の9割近い方にご協力いただいているということになり、地域と学校をつなぐ取組がしっかりと機能していると考えられます。なお、主な支援協力団体は、ここに書いていますとおり、自治会、観光ボランティアガイド、健康推進員、青少年育成学区民会議、民生委員児童委員、日赤奉仕団、スポーツ推進員、文化協会加盟サークル、社会福祉協議会などでございます。</p> <p>それではここからは、地域コーディネーターの中村真奈美さんに実際の活動の状況や成果、課題などを説明していただきたいと思います。中村さん、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>改めまして、皆さん、おはようございます。</p> <p>ただいまご紹介いただきました地域コーディネーターの中村真奈美と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>4月からこの仕事について、地域のことを頑張りたいなという思いで活動してまいりました。今日はその時の写真などを見ていただいて、様子を感じ取っていただければいいなというふうに思います。</p> <p>まず、最初ですけれども、春と秋の2回、小学校のJRCの活動と日赤奉仕団さんと一緒に、清掃活動を行いました。どちらも奉仕活動で、実践目標が同じということで、ぜひとも参加させていただきたいと、日赤奉仕団さんの方から声がありました。というのも、なるべくなんですけれども、4月、5月に行われましたいろいろな団体の総会に出席させていただいて、こういう協働活動を皆さんもぜひご参加くださいとPR方々機会を求めていましたら、早速このように声をかけていただいて、本当によかったなと思います。同じような活動ということで、子どもたちと奉仕団の皆さんと気軽に会話をしながらごみ拾いができてよかったなと思います。</p> <p>こちらは高島学園第2ステージ、5年、6年、7年生の皆さんによるマイシティ高島での一コマでございます。町</p>
---------------------	--

内のコースの中で、いくつかある中の山蔵の前で、大溝まつりの説明を聞いているところです。普段、山蔵は、限られた時にしか開けられないのですけれども、コースの中で立ち寄らせていただくので、見せていただけませんかと声をかけたところ、早速自治会さんがいいよと言ってお返しをしまして、なおかつ、大人の方が来られることはあるのですが、子どもたちに説明する機会もなかったもので、どうやって説明したらいいだろうと悩みながら、自治会の中で学習会を開いて、子どもたちにわかるような説明をするよう頑張ろうというふうに自治会で取り組んでいただきました。たまたま一地区の自治会だったんですけれども、これからはいろんな町内の自治会単位でもこのような取り組みをしていただけたらうれしいなと思いました。

同じくこちらの方は、2年生の町探検の様子です。郷土を愛するという気持ちを子どもたちが持てるように郷土学習をしなければいけないなということで、学校のほうで取り組まれました。先生方も、地元高島出身の先生ということもあって、本当だったら先生方がご案内していただくのもいいと思うのですが、やはり地域の方と一緒に歩けたらいいなということで、高島町観光ボランティアの5名の皆さんが参加していただきました。児童とともに地域のことをもう一回見直す、そういう機会になったので、指導していただいた皆さんも、改めて高島の良さを子どもたちとともに知ることができたわという言葉をしていただきました。

続きまして、秋にちょうど2年生が九九を習う時期ということで、今回、九九道場という名前で活動をしました。小学校の少人数教室をお借りしまして、お昼休みの時間に実施しました。学習ボランティアとしては、前期10名の方が参加をしていただいています。最初に、皆さんに呼びかけをするときに、学習ボランティアで参加してくださいというと、そんな難しいこと出来んわと仰ってたんですけれども、九九だからというと、九九なら出来そうと言って参加していただきました。子どもたちと関わる中で、たか

が九九、されど九九という思いで、ボランティアさんも参加していただきましたし、また、頭の刺激になったわと、年齢は20代から70代ぐらいの皆さんだったんですけれども、ボケ防止になったわというような感想も聞いています。そんなふうにして活動を進めていく中で、ボランティアさんの人数がどうしても少ない日もあります。そんな時にも、子どもたちに大変好評で、教室の前で待ってくれるくらいだったので、これはいけないなと思ひまして、中学生の子に呼びかけをさせていただきました。そうしたら、中学生の担任の先生も快く、みんなに呼びかけるわと言ってくださって、写真のようにたくさんの中学生在参加してくれました。小中一貫校、高島学園ということで、そういう良さもあって、こういうことが実現できたのかなと思います。因みに、左側の背広を着た男性は、滋賀県の生涯学習課の職員さんで、見学に来られた時に、これは協働活動して帰らなあかと急ぎよ参加していただいたというエピソードもあります。

こちらのほうは、家庭科の風景でございます。家庭科と言いましても、特にミシンを使うということが大変なことで、私もミシンを最近やっていないので、どうやってやったらいいのかと思ひ出さないといけないくらいで、先生方ももちろん、若い先生ですとミシンは出来ないわということで、そうしたらミシンに慣れた方をお願いしようということで、ミシン指導をしていただきました。ただ教えていただくだけではなくて、後にミシンの故障とかがないか点検してもらったり、また、ちょっと汚れているアイロン台をきれいに張り替えてもらったりとかそこまで皆さん取り組んでいただいて、すごく先生方が特に感謝されておりました。子どもたちも、うれしい、慣れないミシンが上手いこと出来たわと感想を言っていました。

続きまして、中学生の活動について紹介させていただきます。

高島中学校では、月に1回のペースで、5月ですと大溝まつりの曳き手、6月は福祉施設へ吹奏楽部が演奏に行き

ました。そして7月には学区民会議主催の子どもの宿に、中学生リーダーとして、また、8月には、写真にあるようにたかしま夏まつりにスタッフとして参加しました。他にもいろいろ活動しているのですが、特にこの夏まつり実行委員会の担当者の方と話し合いを進めていきまして、当日までには、夏まつりのチラシのデザインをしてくれたり、また、スタッフの方、皆さんが着用されるTシャツのデザインですね、そういったものも引き受けさせていただいて、生徒が一生懸命夏まつりに取り組んでくれました。写真のようにTシャツを着て、本部テントやその周辺で活動してくれました。抽選のうちわの販売や納涼屋台のゲームコーナーの運営補助、プログラムの配布、それから盆踊りへの誘導などを主に担当してくれました。来年は出来れば、夏まつりの実行委員会にも生徒が参加できて、企画の段階からも生徒が参加できたらいいなと思っています。

続きまして、こちらは9年生対象のドリームプロジェクトという取り組みです。こちらのほうは、9年生ということで、これから進路を控えていて、人生どうやって進んでいったらいいんやろうなという生徒さんを対象に、県の職員さん、消防士さん、地域協力隊員さん、今日も来ていただいています。また、美容師さんなど6名の方、うち4名が高島中学校OBです。そういったいろんな方に自分が今までしてきたことや、これからどんなことをしていったらいいかといった相談も受けながらの講演会となりました。やっぱり、年齢の近い方から説明を聞くほうが、中学生たちもこれから進路をどうしたらいいかなという時に、身近に感じてもらえる良さがあるかなと思いました。OBが4人いますので、こうやっていつかまた自分がお世話になった学校に何かできるということもよかったわと言ってくれました。それと、聞いてくれた9年生には、あと5年、6年たったら、今度は講師になって帰ってきてねと頼んでいたんで、きっと素敵な人生を歩んでくれるかなと思いました。この様子は、11月18日の毎日新聞に掲載されています。

それから、こちらのほうは、郷土料理継承活動をされている様子です。お達者クラブの方が協力してくださいました。なかなか自分たちの町の美味しい味っていうのを、知らないことってたくさんあります。まして、それを自分で作れるっていうことがすごくいい体験になるかなと思いました。先生たちからは、生徒たちがすごく生き生きと取り組んでいたのがよかったわと聞きましたし、また、指導していただいた皆さんからは、子どもたちから先生と呼ばれて張りあいがあったわという感想をお聞きしました。

このようにしていろいろな活動をしてきましたけれども、他にも11月2日に蛇谷が峰に自然体験登山をする予定でしたが、今年は残念ながら台風の影響で参加できなかつたんですけれども、今度は動くほうですね、学習ボランティアに登山に長けた方を10名ほどお願いしていました。下見にももちろん参加していただいて、当日は残念だったんですけれども、そういうボランティアさんもおられるということを少し加えておきたいと思います。

私の仕事のこれからということ、課題も含めてですけれども、地域と学校を結ぶ橋渡し役になればいいなと思います。ボランティア活動の大切さとかを理解していただきまして、地域の皆さんが学校へ気軽に来ていただける、そういったいろんな企画もコーディネートしていけたらいいなと思います。連絡調整とか、先生方にはとても大変な作業が、何か新しいことを始めようと思った時はそういう苦労もあると思うんですけれども、私たちが少しでもそのお役に立てれば、先生方の負担も軽減されるといいなという思いもあります。また、事務所を中学校の体育館の管理室に構えておりますので、皆さんも職員室に行くよりは気楽に学校に来られるわという感想をいただいて、毎日のように事務所に来ていただいています。ここにおられる三矢委員さんももちろんですけれども、多くの方が事務所を訪れて色々な話をして帰られるので、それがとても励みにもなります。今年始まったところですが、まだまだ手探りのところもあるのですが、これからいろいろと感じ取

<p>福井市長</p>	<p>ったこととか、反省点とかもあればいろいろと皆さんと一緒に手を取り合いながら、この活動が継続していけるように努力していきたいなと思います。ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>今は、現状なり、あるいは効果、課題、あるいは活動の実際ということでいくつかの報告をいただいたわけですが、今この報告の内容につきまして、何かこの機会にご質問なり、ご意見なりありましたら、よろしく願いいたします。</p>
<p>三矢教育委員</p>	<p>失礼いたします。</p> <p>高島学園の報告がありましたので、地域のほうから寄せていただいている、中村コーディネーターさんの存在は大変大きかったなと思って、3点お話しさせていただきます。</p> <p>もともと、どこの市内の小中学校もそうですけれども、小中一貫で子どもたちの成長をタテのつながりでもって見ていこうという学校教育に力を入れていただいています。タテ軸に小中一貫教育、ヨコ軸に地域活動、これは今まで何度も話に出ていますように、高島市内、高島だけでなくどの地域もいろんな団体、青少年育成団体、少年のスポーツ関係、日赤奉仕団さん、いろんなボランティアさん、PTAさん、保護者さん、文化協会さん等々いろんな活動団体がおられます。その中で今までからあったんですが、学校のほうも子どもたちの姿を地域へということで、地域へ出かけて町探検、地域探検、それから消防署等々いろんな社会教育施設での学習をしたり、歴史学習をしたり、高齢者さんとあるいは障がいのある方たちとのふれあいだとかいろんな活動を仕組んで、地域へ子どもたちを、地域の中で子どもたちが学ぶという取り組みをしてこられました。</p> <p>もちろん地域も、地域の力を学校へということで、青少年団体、スポーツ少年団、公民館教室とかいろんなところ</p>

でそれぞれ子どもたちへ向けての活動が確かにありました。その学校と地域のこの四角い枠の中に、今までからいろんな活動が確かにありました。でも、今発表があったように、コーディネーターさんがいてくださることで、活動のなり手が確保でき、それが広がったということは本当に大きな成果ではなかったかなと思います。支援者の広がり、今までなら学校から見える範囲の中での支援者探しだったんですけれども、コーディネーターさんが入ることにより、自治会に広がり、観光ボランティアさんに広がり、今まで高島学園は2, 3年前にキャリア教育の文科大臣賞の表彰もされていますが、今回コーディネーターが入ってくださることで、事業所が増えたり、違う団体さんの教育があって、学習のコマが増えたり、本当に今までなかった部分で、逆に子どもにとって、活動の幅なり、出会いの幅が増えたことになります。これが1点目です。

2つ目は、小学校、中学校の学校さんもお忙しいのですが、その中の強い思いを地域のほうへ向けてくださることになったのが大きかったかなと思います。中学校においてはもちろん、9年生の春をどういうふうに迎えるのか、郷土を愛し、自分自身に自信をもって一歩踏み出してもらいたい、送り出したいという中学校の強い思いがあります。小学校は小学校で、じゃあ、そういう中学生が出ていけるように、小学校の間にどの子も学校の中で確かな学力をつけたい、その強い思いで、高島地域はバス通学などいろんな制限があります。特に下校においては、居残って何かをしたいというのが許されない状況で、そのバスに乗せなかったらなかなか大変なことになったりするので、限られた中で、学校にいる中でどの子にも確実に学力をつける、それにはどうしたらいいのか。先ほど少しお話に出ていましたが、掛け算、九九も今までは先生方がいろいろな子どもが合格するまで聞いてくださっていたのですが、ボランティアが入っていただくことによって、先生方はその時間を、多分教室に残って手をかけてやらないといけないこととか、次の授業の準備とかに使えるようになったので、本当

に助かりますといったお話もお伺いしております。私たちもやりがいがあって、脳トレにもなるし、私も参考にしながら、昼休みに学校へ行く日の朝は、九九を反対から唱えながら歩くようにしているのですけれど、子どもと大人が共に学びあえる。先ほどの自治会さんの話も、子どもたちに説明するために、わざわざ自治会の中で話をしてから子どもたちにお話をするという話がありました。子どもと関わるきっかけをいただくことで、大人も学び直しができ、直接子どもとライブで、学びのライブ感というのはこういうことかなと思うのですけれども、子どもと大人が共に学ぶその瞬間がこうしてたくさん出来たというのは大きな強みになったかなと思いました。

それから3つ目ですけれども、この前、学区民会議の、今秋ですので、予算や行事を計画する時期ですけれども、いつもだと今年こうやってよかったので、来年もこうしましょうという話で終わるのですが、今年は半年間コーディネーターさんに入っていて、公民館も、学校も、私たち地域もお互いヨコの関係を非常に意識するようになってきました。例えば、学区民会議で、ある活動にスポーツ的な、体を動かせるような活動を入れたいと話していると、公民館のほうも来年の公民館教室を一年間継続的にできるような運動、スポーツを入れようと、でも学区民会議はそんなにたくさん予算が取れないので、1回で何か関わりあえるような、学生との交流をやったりとか、障害者スポーツをやったりとかそういうことで同じスポーツ教室をするにしても、それぞれの立場でシェアする。そこに学校が入ってくると学校教育の中で、指導してほしいことがあったらそこへ参画していただけると一つの予算ですけれども、それぞれがやっているのではなくて、その予算の中で大きな効果が、1つの予算で何乗もの、累乗の効果が得られるのではないかと期待しているところです。お互い今まではそれぞれがそれぞれの予算をつけていただいて事業をしていたのですが、多分今までなら学区民会議の事業に公民館が口を出してはいけないなと暗黙のお互いテリトリーと

いうものが多分あったんだと思います。それが、いろいろな活動で、それぞれ人が動くようになって、お互いがパートナーとして、いろんな子どもたちの課題を共有しながらそれぞれの立場でできるようになってきたかなというところなので、こういう成果がありましたという話ではないのですが、そういう話ができるようになりました。今後もぜひ継続をというお話もありましたが、これで終わりではなくて、高島だけでなく全市、市内それぞれの地域で出来るといいなという思いがありますし、地域とともに子どもたちが成長できる、安心安全の見守りの中で成長できる、そういう教育環境を整えていく、そういうビジョンをまた時間がありましたらお話しさせていただきたいなと思います。

福井市長

ありがとうございました。
他にございますか。

小多教育長職務代理者

今、中村さんから新たにでてきた実績報告をいただいて、これだけやっていただいていると、これがますます市内全体に広がれば、今心配している子どもと地域と学校と家庭、それぞれをつなぐ接点が大きく貢献してくれるなと思っています。市内各地域で子ども会が解散するなど、地域の中の子どもという存在がほとんど薄れていっている状況の中、こういう支援者があって、協働活動に取り組んでいただいているというのが、これから市内でどのようにして増やしていくか、定着させていく方向というものをもっともってそれぞれが考える必要があると思います。そういうことで地域が、子どもたち、あるいは家庭を見守っていけば、それだけ学校への負担も軽減されていくということも考えられますので、今の実績、経過報告をいただいて、これなら十分にやっていけるのかなと非常に期待して、ぜひとも市内全域へ広がっていくようお願いしたいと思います。

ただ、昨日も話をしていたのですが、放課後の子どもた

ちの行き場所が、あるいは活動の場所が大切になってくるのかなと思います。毎日の放課後、学童の場所もありますけれど、そういった取り組みがもっと他にも必要かなと思います。それを活用するのがこの協働活動かなと、支援者を募って、子どもたちの居場所、行き場所に、それぞれの家庭環境にもよりますが、目を向けていく必要もあるのかなと思いました。

中村さんからの報告は、非常に大きく進んでいるなと思います。聞かせていただきました。高島学園、高島の小学校と中学校の小中一貫の中での取組で、スムーズにしている面もあるのかと思うのですが、それを各中学校区にそれぞれでより一層力を入れていただけるとありがたいと思います。

福井市長

ありがとうございます。他に何かございますか。

川原林教育委員

あの今、中村コーディネーターのお話を聞かせていただきまして、コーディネーターがおられることで外部とのいろんな調整がスムーズにあって、教員の皆さんの負担も減っているように聞かせていただき深く感心しています。この支援ボランティアには大きく分けて2つあるように思います。特殊な、専門的な支援を必要とするものと、地域に密着した支援です。地域に密着と言っても個人と事業者とがあると思うのですが、特殊能力とか地域、事業者と支援に対するネットワークというか、コーディネーターが入ることによって、コーディネーター任せではなくて、そこから人材バンク的なネットワークができれば、そこからまたスムーズに子どもたちの視野を広げる学習ができていくんじゃないかなというのを感じました。なかなか人材を確保することは難しいのですが、そこは子どもたちの将来に向けての視野を広げる形で、支援をいただければと思います。以上でございます。

福井市長

ありがとうございます。

田邊教育委員

先ほど報告していただいた中の資料に基づいてなんですけれども、同じ人にボランティアをお願いする場合があります。先ほどのコーディネーターさんの報告でも、今現在そこまで進んでいる、ここまで地域を巻き込んでボランティアの方がいろんな活動をしていただいている中で、次の世代の若い方に、現在せっかくここまで来ているボランティア活動等をどういうふうにつなげていくのか、伝えていくのか。また、今、ボランティアによっていろんな活動をしている小学生、中学生に、次は自分たちが地域の中でこういうボランティアをしたいとか前向きの意欲、姿勢をどのように受け継いでいっていただいたらよいのか。小中学生に地域の行事に参加していただくことによって、その行事も毎年大きく広がりを見せていると思います。それが、だんだんとボランティアしていただく方の減少によって、先細りというのも確かに考えていかなければいけないことだと思います。学校支援ボランティアの進んでいる学校ほどよいと言われるのですが、小中一貫ということで高島学園は素晴らしい環境があると思うのですが、果たしてその同じ活動を他の小中学校でそこまで進んでいるかということ、それはまだ先の見えないことが多いのではないかなと。それは、学校と地域を含めて活動していくような形を今から取っていかなければならない見本として、高島小中学の取組が、少しずつでも他の小中学校の見本になるのではないかなと思います。これからもっともっと地域と学校が協働するという形の取組が進んでいくとは思いますが、まだまだ助けていただくことがたくさんあります。地域や学校からの相談の窓口にもなっていただきたいなと思います。

上原教育長

後ろの写真を先ほどから見ているのですが、よく見ると手前の支援していただいている方が、きちっと指さして教えていただいている姿を、男の子がきっちりそれを見て作業をしようとしている。包丁を持って、手の上に豆腐を乗せると、非常に危険なところについても、男の子は二人

とも聞いていますし、手前の女の子かと思いますが、その子もきちっと見ています。その様子を後ろの支援者の方もほほえましく見ておられますし、もう一つ向こうのテーブルでも指導をされている様子です。そのあたりが、今学習支援ボランティアが入っておられるほほえましい授業だなと思います。地域の方の愛情を注がれながら、子どもたちが育っているということが写真からも分かりますので、こんな学校教育が進んでいけばいいなと思います。もう一つ九九道場も地域で行われると学力補充にもつながるのかなと思って、発表を見ておりました。

福井市長

ありがとうございます。いろいろ貴重なご意見をいただきましたけれども、今、高島学園の中村さんのほうから、コーディネーターをしていただいている大変わかりやすい事例をご説明いただきました。高島学園の地域学校協働活動の実態がよくご理解頂けたのかなと思います。

いろいろご意見をいただいた中で、例えば放課後の子どもたちの活動の場所ということで、学童が市内でも多くの設置運営がされていますけれども、だいたいパーセンテージというと、ざっくりというとどれぐらいの率で子どもたちが市内の学童を利用しているか分かれば、全体の何割であるとか、地域によって差があるのかとか、そのあたりは分かれますか。

饗庭子ども未来部長

失礼します。子ども未来部の饗庭と申します。

今、市長からお話のありました学童ですけれども、ちょっと私、パーセンテージを把握していないのですが、市内全体では、学童の通所人数は450名あまりの小学1年生から6年生の児童が通っている状況でございます。児童の数をつかめていませんので、割合は分かりません。

そういった中で、学童保育の地域的な差ですけれども、今のところ、学童と言いますのは、保護者が仕事に出られ、家庭におられないという形で生活の場を提供しているところでございますけれども、今は地域的な偏りは全然

福井市長

なく、6地域に市内に13か所あります。今申しましたように、450人余りの児童が通所している形でございます。市内での偏りはなく、同じ様子ですが、今一番多いのは今津地域で、4カ所ありまして120、130人だったかそういう状況でございます。高島では、1か所で40人余りという状況です。以上でございます。

ありがとうございます。

450名から500名程度ということでしたが、6学年ですので、今だいたい学年あたりの子どもたちの数は平均すると400人を切っているかなというくらいですかね。毎年、最近ここ2、3年の出生数が300人前後ですから、少しさかのぼって400人弱ということであれば、だいたい15%から20%くらいの子どもが通っているということでしょうか。

いろいろご意見をいただきました。コーディネーターの役割、あるいは中村さんのご説明を聞かせていただいて、やはりコーディネーターの役割は非常に大きいというご意見が皆様からも聞かれましたし、特に、川原林さん、田邊さんからもございましたが、地域の協働活動本部を運営する、地域の支援者のネットワークの体制、あるいはそうしたボランティアの育成や継続をどうしていくのかということ、田邊さんからもそういうご意見がありました。これからの高島学園の取組を参考にしながら、市内の各学校に広げるあるいは進展をしていくことが必要だろうというご意見をいただきました。その中では、特に具体的な事業で、三矢さんからは予算執行と事業計画の調整であるとか、あるいは子どもたちとともにボランティアに関わっていただいた大人の方々がともに学ぶといったこともあった。そういう意味からしますと、これからの体制なり取組をどうしていくかということが次のテーマになるかと思いますが、事務局からこれからの考え方の整理をお願いします。

北村教育総務部次長

失礼いたします。

それでは、高島市における協働活動の構想案についてご紹介をさせていただきます。パワーポイントをご覧ください。

上の青囲みが学校、右の赤囲みが学校運営協議会、左の緑囲みが地域学校協働本部でございます。学校運営協議会と申しますのは、地域が学校運営に参加する持続可能な仕組みであり、地域とともにある学校づくりの頭脳となる部分であります。その役割といたしましては、学校運営の基本方針の承認、学校運営についての意見を述べることの2つがございます。

組織といたしましては、その一例でございますが、地域住民の方や学識経験者、教職員、地域コーディネーターである地域学校協働活動推進員、各種団体の代表者などが想定されております。そして、もう一方の緑囲みのほうが、地域学校協働本部でございます。地域とともにある学校づくりの実動を担う部分でございます。地域住民や団体、学校との間に緩やかなネットワークを構築し、コーディネートする機能を担います。あくまで現時点における構想でございますが、協働本部は各中学校区単位に連絡会を組織し、公民館や学校、各種団体と企業などと連携しながら進めてまいりたいと考えております。この地域学校協働本部と学校運営協議会が車の両輪として地域とともにある学校づくりを推進していきたいというふうに考えております。

参考までに、県下の状況についてご報告を申し上げます。こちらに挙げておりますのが、平成29年度現在、滋賀県下における地域学校協働活動の取り組み状況でございます。19市町のうち、何らかの取り組みを行っているのが14市町でございます。その中には、すでに全小中学校園まで取り組んで行われているところもあれば、本市のように一部の地域での取り組みにとどまっているところもございます。以上、簡単ではございますが、今後の構想についてのご説明と、県下の状況についてご紹介をさせていただきました。

福井市長

ありがとうございました。

この県内の設置状況、あるいはこれからの取り組み状況というのは前回も出ていたかと思えます。法律が改正されて、県内各市でも、こういう取り組みをすでに少なからず進められているという状況、それから、先ほどから報告のありました、現状なり、課題なり、事例も含めてそのあたりを総括する中で、こういう取り組みが高島の場合も必要ではないかなというのが思っているところであります。今後の方向性につきまして、何かご意見がありましたらお願いいたします。

今、概念図なり、県内の設置状況の中で、みなさんそれぞれ異論はないのではないかなと思っております。こういう方向で進めさせていただくということで、教育委員会として、あるいは高島市として、方向付けの提案をさせていただけたらなと思っているところです。これは当然、予算措置も必要になってまいりますので、このあたりは、来年3月の議会で当初予算関連の予算案として出させていただきますので、また、市議会でも充分ご審議をいただくことになろうかと思えます。実は、9月、10月に各部局単位で、課題協議というのをやっています。市政の中で、まず各部局が抱えている課題、あるいは各部局の政策構想の中で、将来の高島市を考えた場合に、こういう政策を展開していくべきという政策も含めて、毎年4月に一年間の課題協議をして、10月後半に入って前半の課題、あるいは政策がどのように進んでいるのか、年度後半にどう進めていくのかについて協議を各部局ごとにやらせていただいています。その時もこのテーマについて教育委員会と私のほうで話をしています。予算のことはあまり言ってしまいますと議論が進まない部分もあるのですが、実際にやはり新規の政策を実現、あるいは実行していくには、必要な予算がございます。何もかも新規、拡充でいきますと、予算が対応しきれない部分がありますので、スクラップすべきところはスクラップしながら、見直すべきところは見直してやるということが必要ですので、そのあたりも議論されてきて

います。参考までに、高島市のいわゆる教育予算ですが、県内各市町の中でどの程度投資をしているのか、例えば住民一人あたりであるとか、人口で案分したらどうなのかということ、一度県内各市町と比較してもらえないかということで調べてもらったら、県内で3位でした。かなり高島市としては、単独で教員の加配をしたり、あるいは特別に支援を要する子どもたちの教育活動を支援する支援員など、いろんな独自の、加配も含めて施策をやらせていただいています。ICTも、民間企業の方から高島の教育に協力したいということで、昨年1千万円、今年も1千万円ということでこれから3年間毎年1千万円を寄附するというお申し出をいただいて、そういういろんな形で予算措置をしています。そのあたりはやはり、どこかでスクラップすべきところはスクラップしていかざるを得ないという状況です。決してプラスマイナスゼロという意味ではないんですけども、見直すべきところは見直していきながら、3月議会に向けて予算編成をさせていただきたいと思っています。今日のこの貴重なご意見をいただきまして、協働活動そのものを、県内の市町にはないような、高島の活動を実施していただきたい。そして子どもたちを支える、あるいは教育現場を支える体制を目指して、教育委員会の中でもう少し中身を精査していただき、取り組んでいっていただき、また、議論をさせていただければと思っております。

では、時間の関係もございますので、休憩なしで進めさせていただきますしたいと思います。

続きまして、2つ目のテーマであります、教職員の働き方改革についてを議題とさせていただきます。まず、これについて、事務局から説明をお願いします。

失礼いたします。学校教育課長の内藤でございます。

それでは、私から、高島市の教職員の働き方に関する現状とその取り組みについてご説明申し上げます。

内藤学校教育課長

まず初めに、教職員の長時間労働の背景、要因についてご説明いたします。1番と2番をあわせて説明いたします。学校を取り巻く環境は、複雑化、多様化しており、そのために教職員に期待される働きや教職員が担う役割も年々増加、肥大しております。3番についてですが、次の新しい学習指導要領が示され、その実施に伴う主体的、対話的で深い学び、いわゆるアクティブラーニングの実現や小学校における英語の教科化など新しい教育への対応も必要となっています。4番についてであります。学校教育は、教職員の子どもたちのためという熱意、情熱や使命感、責任感に基づく、ある意味、勤務時間を顧みない献身的で自発的な取り組みにより支えられてきたということがございます。しかしながら、長時間に及ぶ時間外労働は教職員の健康を損なう恐れがあり、仮にそうなった場合には、教育活動にも支障をきたすことが懸念されます。そこで今後、教職員が自分の健康を保持しながら自信と誇りを持って子どもと向き合う時間を確保するよう働き方改革に取り組んでいかなければならないと考えております。

続きまして、教職員の時間外労働の実態把握について説明いたします。教職員は、一般行政職とは異なり、例えば生徒指導事案の解決のための家庭訪問があったり、教職員が帰宅後、授業の準備をしたりするなど、その勤務態様に特殊性がございます。そのため、出勤時刻、退勤時刻のみの把握による勤務時間管理は馴染まない点がございます。そこで、教職員の勤務状況、特に時間外労働の実態把握については、平日における出勤時刻前や退勤時刻後の勤務時間、持ち帰り仕事を処理するために要した時間、加えて、部活動を含む休日における勤務時間について、教職員各自が記録しその実態を把握しております。その様式がご覧の様式でございます。教職員は、この時間外労働申告書により日々の出勤退勤時刻を記録するとともに、持ち帰り仕事を処理するために要した時間、休日において勤務した時間、これらの仕事内容を記入します。赤色で囲んだところ、出勤時刻、退勤時刻、持ち帰り時間をセルに3か所入力す

ると、その日の時間外労働の時間が自動計算されます。これを毎日記録していくことにより、もちろん土日のセルにも入力が可能ですので、1か月後にはすべてその月の時間外労働時間がトータルで自動計算されるものです。月末には集約したものを管理職へ報告するとともに、教職員自らが1か月の働き方を振り返り、業務改善を図るための資料として活用しています。もちろん、これを随時更新することにより月の途中でその経過を確認することもできます。また、管理職は教職員の日々の働き方を随時、視認、確認し、それとともにこの申告書にもとづき必要に応じて教職員と面談し、働き方について、指導、助言しています。そして、翌月の月初めに、自分の学校の教職員の勤務実態を集約して、市教委に報告します。このグラフは、先月10月における市内の教職員の小学校、中学校別の時間外労働の状況を示すものでございます。小学校におきましては、時間外労働が20時間以上60時間未満の職員が多くなっています。一方、中学校では、60時間以上の割合が高くなっております。このことを分析しますと、中学校で時間外労働が増えているのは、10月に中学校体育連盟の秋の大会、秋季総合体育大会を控えた時期でございましたので、そういったこととともに秋季総体が終わった後に、すべての中学校が中間テストを実施しておりますが、その中間テストの問題作成、あるいは採点業務があったためと考えております。

このグラフは、月に80時間以上の時間外労働をした教職員の推移をまとめたものでございます。赤色が中学校、青色が小学校です。まず、全体的に見ますと、小学校よりも中学校においてその割合が高くなっております。また、1学期におきましては、6月から7月にかけてであります。いわゆる成績処理、成績をつけるために時間外労働を要した。そのためにその割合が高くなるという傾向が見られます。夏休み中には、時間外労働が大きく減少しております。この機会を捉えまして、基本的に子どもが登校しておりませんので、登校日や部活動はございますが、比較的

年次有給休暇、特別休暇が取りやすい時期であるため、この時期に計画的に取得するよう推奨しております。また、9月、すなわち2学期が始まりますと、また時間外労働時間が増加しています。9月にはすべての小学校で運動会が行われました。また、いくつかの中学校においては体育祭が行われましたので、その練習、準備のため時間外労働が増えたと考えられます。

ここまでお話ししました教職員の時間外労働の状況3点について整理をしました。1点目でございますが、月80時間以上時間外労働をしている教職員は、小学校で約4～7%、中学校で約15～30%で推移している実態がございます。学校におきましては、授業の時間だけでなく休み時間や給食の時間も含めて子どもとかかわります。また、下校後も会議や保護者への対応がございますので、授業の準備やテストの採点、その他の事務を行うのはどうしても勤務時間外になってしまうことが往々にしてございます。

2点目でございますが、中学校においては部活動がございます。平日の指導に加えまして、休日における指導も時間外労働となります。加えまして、中学校におきまして生徒指導事案に丁寧、かつ迅速に対応するために時間を要している現状がございます。

3点目です。これは小学校、中学校に共通することではありますが、年間を通して見ますと、学期末や行事前、生徒指導等への対応により時間外労働が増加していることが考えられます。

これらの現状を踏まえて、働き方改革に向けた取り組みではありますが、まず小中学校におきましては、教職員一人一人が時間外労働申告書を毎日正確に記入するようしております。そのことによって、教職員一人一人が自分の働き方を正しく把握するとともに、管理職は所属職員の勤務状況や健康状態の把握、働き方についての指導、助言を行っております。また、各学校におきまして研修を行い、職場全体、組織における働き方の課題、個人としての働き方の課題を振り返るとともに、働き方に対する意識改革や、

各学校におきまして実態や課題が異なりますので、それらに応じた超過勤務縮減の対策について話し合いをして、全校あげて取組を進めているところです。例えば会議を効率的に進めるため、資料を事前に配布し、あらかじめ内容を確認しておくこと。また、協議内容を精選したり、会議の進行を工夫したりするなど、その運営の効率化を図る取組も行っております。さらに、1週間に1回程度、定時退勤日を設定し、職場全体で仕事を効率的に進めて帰宅するための雰囲気づくりを行ったり、退勤予定時刻を自己申告したりすることにより、働き方を改善する意識を高める取組を行っている学校もございます。他にも授業で用いる教材やワークシートを他の教員も使えるよう共有化を図ったり、業務内容や担当職務の見直しを行うなど各学校の規模や実情、課題に応じた対策を進めているところです。

また、中学校の部活動についてであります。部活動は、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成し、仲間や教師と密接に触れ合う場としても大変大きな教育的な意義や効果がございます。そのため、教員は毎日熱心に取り組んでおります。かつて私もその一人でありました。しかしながら、長時間に及ぶ部活動につきましても、生徒の健康や余暇時間の確保、教職員の過重労働の抑制という点から一定の配慮が必要であると考えております。こうしたことから、市内中学校における休日の部活動は、土日のうちいずれか一日を休みとすることを原則として負担軽減を図っております。加えまして、平日の部活動も、週1日を部活動を行わない日として設定をしております。また、一つの部活動に対しまして、複数の教員が顧問となり、指導による負担軽減を図るとともに、専門的な指導ができる教員がいない部活動がある学校におきましては、地域の専門的な指導者を招聘して、その指導にあたっていただいております。

一方、市教育委員会の取組といたしましては、5点ございます。1点目についてですが、各学校の校長に対し、教職員の勤務状況、健康状態の適切な把握について指示、指

導を行うとともに、業務内容の点検や見直しをするよう指示、指導を行っております。2点目でございますが、学校から市教委への報告文書については、その必要性や重要性を踏まえ、精選を図るとともに、可能な限りメールによる報告とし、業務の負担軽減を図っております。3点目でございますが、市教委主催の会議や研修について、その内容や回数について、次年度以降精選する方向で検討しております。4点目でございますが、教育委員会による学校訪問につきましては、すでに今年度の途中よりその内容や回数について精選をし、削減、時間短縮を行ったところでございます。5点目でございますが、教職員の出張に関しましては、学校の規模やその実情を考慮し、参加対象者を絞るなど柔軟に対応するようにしております。

このように様々な取組を行ってはおりますが、これらはまだ始まったばかりであり、今後も継続する必要があるとございます。

今後の課題としましては、7つに整理をいたしました。1点目、時間外労働申告書等により、引き続き自分の働き方を把握し、教職員自らが健康管理を行う、それとともに、自らの働き方を振り返り、タイムマネジメントの意識を高めていく必要があると考えております。2点目は部活動であります。生徒、教師ともに過重な負担にならないよう、一層その指導改善を図っていく必要があると考えております。3点目でございますが、学校に求められる役割が、どんどん多様化、複雑化していることはすでに申し上げたとおりですが、その中に、課題解決のために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家、あるいは関係機関との連携を積極的に進め、地域学校としての組織体制をより強化する必要があると考えております。4点目でございますが、教職員の事務に関する負担軽減を図るため、校務支援システムの導入について検討していくことも必要かと考えております。5点目でございますが、教職員の働き方改革は、学校だけではなかなか実現できないと考えております。そのためには、保護者あるいは

福井市長

地域の方々の理解と協力が不可欠であると考えております。6点目ですが、先ほどまで議論されておりました、地域とともにある学校づくりでございますが、これは、子どものためだけではなくて、ひいては教職員の働き方改革につながるものであると考えております。この推進を今後も続けていきたいと考えております。7点目でございますが、今後、県より学校における働き方改革取組方針が示される予定でございます。これまでに出示されている国の方針や県の方針に基づいた取組を進めていきたいと考えております。

いずれにしましても、これら7点まだまだ課題が大きございますので、今後一層改善が進むように努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

ありがとうございます。

教職員の働き方改革ということで、国を挙げて、あるいは県を挙げて、このテーマを具体的に掘り下げて、具体的な改善策の構築に向けて取り組まれているという状況です。こういう問題の前提となりましたのも、電通の社員が100時間を超える残業、それと命を自ら絶ってしまったという悲惨な事件もあって、最近、特に大きく取り上げられる機会が多いわけですけれども、今、説明を聞きながら、電通の鬼の十則をインターネットで見っていたのですが、なるほど厳しい十則、一つの約束事ですが、書かれています。取り組んだら放すな、殺されても放すな、目的を完遂するまではというのが一つあって、そういうのがずらっと10個並んでございます。異常と言えは異常ではありますけれども、やはり民間企業はこうでもしないと勝ち残れない、国際社会の中でというのがありのしょうし、それが教育現場であったとしても、教職員のそういう負担が増えれば増えるほど、結果として子どもたちにいわゆる高い品質の教育をしなければならないということが、どうしても過重な労働環境の中で教育の質が落ちかねないというリスクがあるわけです。今日は、このテーマについて高島市とし

てどうこうしていくということも方向性としては議論があるわけですが、あまりにも現状が多岐にわたっておりますし、今日のところはこういう状況であるということを情報提供させていただいて、次回にはこれを踏まえる形で、おそらくその頃には県の一定、方針も出されているやもしれませんので、そういうことも踏まえて市として例えばどういう取組が必要なのかということを議論していただければというふうに思っております。

この件に関しまして、そういうことで次の会議で少し掘り下げさせていただくということで、今日は今の説明がありましたけれども、この機会に確認などをしていただくことがあればご意見をお出しいただければと思います。

さっきの説明の中で、平日は一日部活を休む、土日の部活はどちらかを一日休むということは、市内小中学校できちっと出来ている、守られている、そうは言いながらもなかなか実際はそうはいかないなどがあるのかどうか、そのあたりを聞かせください。

伊吹教育指導部長

原則としまして、今、市長が仰いましたように、平日は1日、土日についてはいずれか1日を休むとなっています。原則としてはそうになっていますが、そのことが完全に徹底されているかということにつきましては、少し原則とは乖離があります。

福井市長

だから、そのところを教育委員会として市内の学校現場での、とりわけ例えば先ほどの説明だと、中学校は4人に1人が10月は80時間を超えているというそういう数字がある。それは確かに、いろんな行事があるのももちろん理解できるのですが、一般的な部活動を一定、やはり半ば強制で、どこまで現場にその方針を徹底していくかについては、各小中の校長先生あたりには教育委員会としてはどういう要請、指導をされているのですか。

上原教育長

今、部長が言いましたように、土曜日、日曜日のどちら

	<p>かは休む、それと平日のうち1日は休むということは、原則として各学校に取組を要請しております。ただ、大会の1か月前というところでは、若干の例外があります。そこが、現実と乖離するところであります。学校は大会に臨む子どもたちの姿を見ますと、それも一理あるなということも思いますので、今のところは、現実は現実として承認をしています。今後、このことが課題になっていきますので、徹底は進めていくべきだと思っておりますが、部活がない日に学校は職員会議なり校内研修を入れてきますので、そのことによるとなかなか部活がないから定時に帰れるかという必ずしもそうではない。先生方は部活がないと部活がしたいために、部活をその日に変えてしまう。学校の教員は、10ある仕事を2削って8にしても、また、2つを子どものために持ってくるというそういうタイプでありますので、そのあたりも考慮しながら、活動自体について指導を入れていきたいと考えています。</p>
福井市長	<p>80時間を超えるのが4人に1人、25%ですけども、10月で、中学校の教職員で最高何時間の時間外がありましたか。</p>
和田学校教育課主監	<p>10月のデータについては取りまとめをしているところですので、9月のデータですが、最長で月148時間です。</p>
福井市長	<p>月148時間、単純平均すると、150時間として1日5時間です。例えば部活で週に1日、あるいは土日どちらか片方休みということをやれば、どう考えても150時間という数字が、時間外の実績として出てくるはずはない。そのあたり、例えば担任をもったりとか、部活動の特定の部を担当したりとか、なかなかそれに代わってお互い教職員間でフォローしあうということはなかなか難しい状況もあると思うんですけども、時間外が100時間をはるかに超えてしまっているような現状からすると、教職員の健</p>

健康管理ももちろんですし、通常の子どもたちに対する、向き合いながら授業をしていくというそういう中の、教育のいわゆる質の問題も当然、考えられるなと思うところで、非常に大きな問題です。先ほどの説明の中で、労働時間の申告書の様式の中で、産業医による面接指導の希望欄となっているのですが、一定を超えると強制で受けしてもらわなければならない。この様式では希望する、しないというのがあるのですが、一定の時間を超えると産業医の面接を受けしてもらわなければならないというルールがあったのではなかったですか。

上原教育長

労働安全衛生法では、一定数100時間を超える場合は産業医の面接を受けなければならないということが決まっていますが、ここは、先ほどのは45時間を超えた場合にのみ必ず記入することとなっていますので、45時間を超えた職員で一定の時間を超えていなくても希望すれば面談を受けられるというシステムで、手を挙げるということになっています。一定時間を超えると定期的に面談を行っています。

福井市長

45時間を超えた人が、80時間を超えているのではないかと理屈的には思うので、ちょっとよくわからないところがあった。45時間以内ならわかるが、45時間以上であれば、当然80時間はそれを超えているので、その人たちが希望しないとしてしまうとそこで終わってしまうので気になった。

先日も、今月の県の市長会でこの課題、このテーマで意見交換をしたのですが、いずれの首長さんも頭を抱えていると仰っていました。なかなかすぐに解決に直接つながるような、即効性のある政策がなかなか見つからない。いろんな単独の事業で、教職員の皆さんの加配をして、いろんな形で負担を軽減できるように政策、施策を工夫しながらやっているのが実際ですけれども、なかなかそれもすぐに劇的に時間外が減少するというのは、効果がなかなか計れ

ない。そういう環境を整えれば整えるほど、もっと子どもたちに、もっと良い教育を、もっと良い環境をとどんどんはまり込んで、当然そうあるべき姿ではあるのですけれども、なかなかそれが直ちに負担軽減につながらないということも、それぞれ大きな課題として意見交換をしておりました。大変重い課題、テーマではありますが、何かこのテーマに関してご意見はありますか。

ご意見がないようですので、そうしましたら、今日のところは教職員の皆さんの働き方改革ということで現状を聞かせていただきましたので、次回もまた、この働き方改革については一つのテーマとさせていただいて、各委員からご意見を賜りたいと思います。

それでは、今日の本年度第2回の総合教育会議を終わらせていただきます。

それでは、働き方改革につきましては、また次回、第3回の総合教育会議のほうで、少し踏み込んでいっていただくということでございました。

長時間にわたりまして、熱心にご協議いただきありがとうございました。今日の2つのテーマにつきまして頂戴しました意見につきましては、今後の体制整備ですとか連携体制の確立といった今後の方向性や事業の在り方の意見としてまいりたいと考えております。

それではこれもちまして、平成29年度第2回高島市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。お疲れ様でした。

大塚教育総務課長

